

平成 7 年 6 月 20 日	植 防 情 報	発表	栃木県病害虫防除所
--------------------	---------	----	-----------

本年 5 月に、鹿沼市のトマト栽培ほ場で、トマトサビダニの発生が本県では初めて確認されました。本害虫は、野菜や花き類に大きな被害をあたえるおそれがあります。

病害虫発生予察特殊報第 1 号

病害虫名：トマトサビダニ

作物名：トマト

1 発生の確認までの経過

本種は、昭和 6 1 年に沖縄県で発生が初めて確認され、その後西日本を中心に発生が拡大し続けており、近県では静岡県、神奈川県、埼玉県で発生が確認されている。

本県では、5 月 2 5 日に鹿沼市のトマト栽培ほ場で、本種と思われるダニの寄生と被害が見られたため、埼玉県園芸試験場の根本久博士に同定を依頼したところ、本県では未発生であった「トマトサビダニ」と確認された。

2 トマトサビダニの特徴と生態

(1) 形態

体形はくさび形で成虫の体長は雌で約 0.18mm、雄は雌よりやや小さい。体幅は 0.05mm 体色は黄褐色。肉眼での観察は極めて困難である。

(2) 生育

発育に好適な温度は 26.5、湿度は 30% と乾燥条件を好む。この条件で卵期間は 2 日 1 齢幼虫期間は 1 日、2 齢幼虫期間は 2 日、1 世代の経過期間は 6 ~ 7 日と非常に短い。なお、休眠性は確認されていない。

(3) 寄生植物

トマトのほか、ナス、ジャガイモ、トウガラシ、タバコ、ペチュニア等ナス科植物に寄生する。

3 被害

本種が寄生すると葉の裏面が光沢を帯び、周辺部が黄褐色になるとともに葉裏側にややそり返る。多発すると下葉から徐々に枯れ上がってくる。このため、土壌病害と間違いやすい。また、茎にも寄生して灰褐色になる被害を生じる。

寄生された果実は灰褐色になり、果実表面が硬化して細かい亀裂を多数生じ、サメ肌状となるため商品価値が著しく低下する。

主に施設栽培で発生し、露地では少ない。ほ場内での分布は不均一で、初期には1～2か所にまとまって発生し、その後点々と多発する。

4 防除対策

(1) 耕種的防除等

既発生地で育苗した苗を導入しない。

本種は衣類等に付着しても移動するので、発生ほ場での作業は後まわしにする。

被害株は抜き取って、ほ場外で焼却するか、土中に埋めるなどして処分する。

(2) 薬剤防除

トマトでは発生が見られたら、次のいずれかの薬剤を散布し、他害虫との同時防除を行う。なお、防除効果を高めるため、葉裏にもよくかかるようにいねいに散布する

薬 剤 名	倍 率	適 正 使 用 基 準
ケルセン乳剤40	1,500～2,000 倍	収穫前日まで 2回以内
DDVP75乳剤	1,500～2,000 倍	収穫3日前まで 3回以内
モレスタン水和剤	1,500～2,000 倍	収穫3日前まで 5回以内
アディオン乳剤	2,000～3,000 倍	収穫前日まで 3回以内

〔薬剤散布時の注意点〕

印の薬剤は、マルハナバチに対する影響が大きいため、散布にあたっては注意する。

詳しくは、栃木県病害虫防除所までお問い合わせください。

TEL 0286-65-5645